

代表者名	藤井 征生	所 管 部 課 名	産業経済労働部観光課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設 立 年 月 日	平成9年12月5日

【沿革、及び、県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】(15年度当初) (百万円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100	40.0
市町村	3	25	10.0
その他	16	125	50.0
計	20	250	100.0

【事業】

主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
酒類、食料品、土産物等の販売
上記各号に付帯する一切の業務

事業実績

(人)

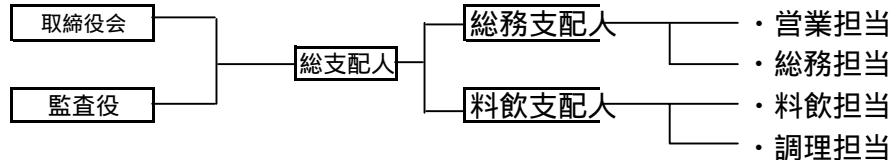
事業名等	12年度	13年度	14年度
宿泊客	17,647	17,471	19,263

14年度事業概要、及び、15年度事業計画・目標

14年度売上高は、春の好天及びTV・雑誌掲載等で利用客が伸び、前年比9.0%増の348百万円、経常利益は前年比146.7%増の20百万円と好調であった。15年度は不況をはじめデフレの進行など取り巻く環境を踏まえ、宿泊人員目標17,650人(前年実績比-8.4%)、売上高は321百万円(前年実績比-7.7%)と設定している。

【組織】

運営機構



役員数

(人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県OB		
	8	1
内、県OB		
内、県職員	1	
計	9	1
内、県関係者	1	

職員数

(人)

	人数	平均年齢
正職員	8	27.5歳
内、県OB		
出向職員	2	
内、県職員		
臨時・嘱託	19	平均勤続年数
内、県OB		
計	29	1.1年
内、県関係者		

【財務】

損益状況(14年度末)

(百万円)

	金額
経常収入	A 348
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	348
運用益収入	
その他	
経常支出	B 328
人件費	
その他	
経常損益	C = A - B 20
経常外収入	
経常外支出	11
当期損益	9

(百万円)

県の損失補償額	県の債務保証額

財務状況(14年度末)

(百万円、%)

	金額	構成比
流動資産	155	90.6
固定資産	16	9.4
資産計	171	100.0
流動負債	11	6.4
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
引当金等	24	14.0
負債計	35	20.5
資本金	250	146.2
剰余金	-114	-66.7
資本計	136	79.5
負債・資本計	171	100.0

(千円、%)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	259	0	0.0%

【県の財政支出】

(千円)

	11年度	12年度	13年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	12-13増減	13-14増減
健全性	自己資本比率	%	89.17	86.22	79.78	2.95	6.44
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	1,080.85	1,101.16	1,449.37	20.31	348.21
収益性	剰余金（欠損金）	千円	130,564	122,720	113,499	7,844	9,221
	経常利益率	%	1.76	2.55	5.84	0.79	3.29
	総資本利益率	%	4.05	5.51	5.56	1.46	0.05
発展性	経常収入額	千円	308,429	319,329	347,982	10,900	28,653
効率性	総資本回転率		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	職員1人当たり経常収入	千円	11,015	11,405	11,999	389	595
	人件費比率	%	22.85	25.24	26.84	2.39	1.61

2 経営目標の達成状況

経営目標			1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度
経営改善指標	経常利益額（千円）	目標				15,000
		実績	5,428	8,134	20,310	0
経営改善指標	売上高経常利益率（%）	目標				4.7
		実績	1.8	2.5	5.8	0
事業成果指標	売上高（千円）	目標				321,000
		実績	308,315	319,262	347,932	0
事業成果指標	個人客宿泊人数（人）	目標				13,600
		実績	12,290	12,790	14,830	0

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

ターゲットを個人客に特化した販売戦略が功を奏し、宿泊で過去最高数値をあげたほか、日帰りや付帯収入についても前年並みの売上を達成、合計人員、売上ともに過去最高の数値を残すことができた。費用についても、材料原価、人件費、一般経費いずれも計画構成比以下に抑えた結果、経常利益は初の20百万円を達成し、計画値を大幅に凌駕した。また、役員退職慰労金11百万円を控除しても、当期利益で9百万円と過去最高数値を得たこと、更に、経常利益率が5%をはるかに超えた等、極めて満足のいく成果を達成できた。

4 総合評価

概ね安定した経営内容	一層の努力を要する経営内容
<p>経営環境が厳しい中、中高年の個人客に的を絞る等により、売上の増加、3期連続の黒字を達成したことは評価できる。 累積損失の早期解消に向け、引続き努力されたい。</p>	